

## 2023 年度 衛星劇場 番組審議委員会 議事概要

松竹ブロードキャスティング株式会社

### 1. 開催年月日

令和 5 年 12 月 14 日(木)11:30~12:15

### 2. 開催場所

銀座 花蝶

### 3. 委員の出席

委員総数 9 名

出席委員数 6 名：

・小野寺 重之、田中 絵美子、太田 博、堀江 ミエ子、松本 行央、植草 信和

欠席委員数 3 名：

・中村 歌六、相坂 吉郎、松本 淳

### 4. 放送事業者 出席 8 名

- ・井田 寛 代表取締役社長
- ・大谷 二郎 代表取締役副社長
- ・鶴澤 由紀 マーケティング部門・事業開発部門担当取締役
- ・深田 誠剛 編成部門・オリジナル映画製作部門プロジェクト担当執行役員
- ・妹尾 祥太 編成部長
- ・山野井 崇之 経営企画室室長/番組審議委員会事務局
- ・小山 雄介 経営企画室/番組審議委員会事務局
- ・小原 明子 マーケティング部広報担当/番組審議委員会事務局

### 5. 議事概要

#### (1) 報告事項

鶴澤取締役から以下について報告した。

- ・マーケット状況報告
- ・視聴者からの番組内容、編成内容に関する問い合わせ等について

#### (2) 審議事項

- ・衛星劇場の番組内容、編成内容についての意見

各委員からのコメント・質疑応答は以下のとおり。

「小津安二郎生誕 120 周年企画」について

Q：小津安二郎生誕 120 周年企画を、どのように PR してきたのか。

A：衛星劇場では計 30 作品以上を放送。専用チラシも別途作成し、PR してきたことで従来の小津監督特集よりも加入につなげることができた。特に「突貫小僧」については、新しい映像が見つかったこともあり、国際映画祭後に衛星劇場で放送することができた。

Q：小津監督については、一人の映画監督が国内外で 100 以上の催事を周年企画として行っていることはすごいことである。松竹には著名な監督が他にもいると思うので、今後もビジネスチャンスにつながることも多いのではないか。

A：周年企画を通して改めて小津監督の評価の高さについては我々も実感している。他の監督についても評価が高まるように力をいれて作品を取り上げていきたい。

中国ドラマ編成（「独家童話」「安楽伝」など）について

Q：中国ドラマの人気は韓流ドラマと比較してどうか。

A：はっきりとした数字では捉えられないが、韓流については、一つ一つの作品のクオリティが高く、視聴者の評判も高いため、まだまだ強いコンテンツという印象がある。中国ドラマについては、韓流ドラマと比較すると配信各社は力を入れていない印象がある。そのような中で中国ドラマを衛星劇場で放送することが重要だと考えている。

Q：中国ドラマは有名なスター俳優が出てこない印象にあるが、実際はどうか。

A：シャオ・ジャン、ワン・イーポーといったスターが中国におり、衛星劇場で取り上げている。韓流スターの場合は来日してファンを獲得しているが、中国の場合はそのようなことがないため、ブームが起こりづらい面がある。

その他ご意見

Q：コロナ禍の 3 年間でターゲットとなる視聴者の年齢層や性別等の変化はあったのか。

A：2 年前までのデータとなるが、年齢層は高めの視聴者が多く、視聴目的は韓流・アジア系と映画が概ね半々くらいとなっている。また、長く加入いただいている視聴者は映画目的が多い傾向にある。韓流については女性視聴者が多く、映画は男性視聴者が多い。近年は、人気作品の上映イベントを開催しており、作品や俳優のファンが衛星劇場を通じてつながっていくような機会を創出している。

Q：BS 松竹東急との関係性について教えていただきたい。

A：BS 松竹東急は弊社と東急株式会社の2社で総務省に申請を行い、認可をいただいたチャンネルである。現在は株式会社ザイマックスにも株主として入っていただいている。

Q：BS 松竹東急と番組の面で連携している部分はあるのか。

A：蒲田行進曲の特別番組や過去に収録した落語を再放送するなど、数は多くはないが連携している部分はある。

Q：Netflix は韓流作品で加入者数を伸ばしている印象があるが、そのような配信各社の影響もあって韓国ドラマは以前に比べて獲得しづらくなっているのか。

A：ここ5年くらいで強いコンテンツが配信各社に取られている現状にある。製作段階から作品に投資が行われており、独占コンテンツも多く、調達できない作品が多い現状にある。

以上